

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年 2月 7日

事業所名 きらり倉敷

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動内容に応じて活動エリアを設けている。	集団活動エリアが狭い。児同士の一定の距離が保てるようエリアを広くする。
	2 職員の配置数は適切である	○		法令上での基準を満たして運営している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○		床はフラットな状態であるが、衝立や柵で空間を分けている為年齢が小さい方や歩行が不安定な方にとっては危険である。誰もが生活しやすい空間を検討していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			建物が古く寒そうな雰囲気である。少しでも暖かみのある空間を心掛けていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		職員面談を年3回実施。目標の設定、目標の進捗確認、目標に対する評価等目標管理活動のプロセスに則り行っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の方から頂いた意見を職員間で共有し改善方法を検討し実行している。第三者評価を定期的に受審し改善に繋げている。	避難訓練実施状況、個人情報の取り扱いについて、保護者の方に説明できていなかった為、保護者の方に分かりやすい方法でお伝えできるようにする。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人HPやWAMNETにて公表している。	利用して下さる方が安心してご利用できるよう、事業所に対する意見等を真摯に受け止め改善に努めていく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		定期的に第三者評価を受審し改善に努めている。	頂いた意見や評価を受け止め、一つずつ改善する事で、サービスの向上に努めていく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人内研修・事業所内研修・外部研修に参加している。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			保護者の方の思いやご利用児の状況をより把握し、個別支援計画の立案、支援の実施、評価の個別支援計画プロセスに則り支援を行っていくよう努める。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		太田ステージ、遠城寺、人との関わりレベルシート等を使用しアセスメントを行っている。	発達アセスメントだけではなく、生活環境や地域生活等多角的視点からアセスメントを行い利用児支援を行っていく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		本人支援だけでなく、家族・地域を含めた支援内容で支援計画を立案している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画に沿って支援を行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		各自のねらいに応じた様々な活動を提供するようにしている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節に合わせた活動を行っている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼にて毎日確認している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼にて毎日行っている。当日不在の職員には終礼ノートを活用して情報共有している。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		電子媒体を活用し記録をとっている。また電子媒体上で情報の共有も行っている。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月ごとにモニタリングし、計画の見直しを図っている。		
21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本は児発管が参画している。必要に応じて直接支援職員も参画している。		
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて連携をはかっている。		

関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在は医療的ケア児の受入実績はないが、受入の際は、関係機関との連携を図る。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在は医療的ケア児の受入実績はないが、受入の際は、関係機関との連携を図る。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			状況表や移行会議にて、情報共有等を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			状況表や移行会議にて、情報共有等を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			同法人内に児発センターや発達障害者支援センターがある為、適宜連携を取り合っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			児童クラブや児童館との交流はないが、地域の子ども達も含めた公益活動を実施している。今後も継続し障害の有無に関わらず地域の子ども達と一緒に育ちあえる活動を企画していく。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		会議には出席していない。参加者に内容の確認を行っている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			電子媒体を活用したり、保護者懇談を実施し共通理解を図っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			今年度はコロナ禍により、定期的開催できていない。	どんな状況であっても必要な方が参加できる研修方法を検討し実行していく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			送迎時や懇談にて保護者の方の思いを聞きサポートするようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		事業所単位での保護者会は行っていない。	保護者が集える場を企画していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			電子媒体を活用し発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○				
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			懇談・電子媒体・電話・筆談等様々な方法を活用し情報伝達を行っている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			互近助パントリーのサポーターとして協力し、地域の方に頼られる事業所になることを目指し事業運営を行っている。	コロナ禍での顔の見える関係作りについて実施・参加していただける形を考えていく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			新型コロナウイルス感染症対応のBCPも作成している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			事業所内訓練に加え法人一斉避難訓練も定期的実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○				
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			事業所で起きた事は職員間で共有し、改善方法を検討している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			毎年職員全員対象に研修を実施している。互いの行動や振る舞いを確認している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			今現在は身体拘束を行っていないが、必要な場合は身体拘束以外で対応できる方法はないか検討し、やむを得ない場合は、プロセスに則り行っていく。	